



健康ワンポイントアドバイス

痛くない小児用の インフルエンザワクチンが登場

今年もインフルエンザが流行する時期になりました。インフルエンザは、成人より小児の方が感染しやすい、特に乳幼児は重症化しやすいといわれています。発症・重症化予防のためには、ワクチン接種が有用とされています。

今年から、痛くない小児用のインフルエンザワクチンが本格的に使用できるようになりました。このワクチンは、第一三共株式会社が販売する点鼻タイプの弱毒生ワクチン「フルミスト」で、欧米ではすでに実用化されています。インフルエンザの侵入経路である鼻の粘膜に点鼻して免疫を誘導するため、注射型ワクチンより高い感染予防効果が期待できます。

また、生きたウイルスで免疫をつくるため、ワクチンに含まれる株と完全に一致しない場合でも、ある程度の防御効果が期待できます。点鼻であるため、皮下注射で腫れやすい人には、お勧めです。

今回承認された「フルミスト」の接種対象は、2歳～



19歳未満で、接種回数は年1回(皮下注射の場合、13歳未満は通常2回)です。重度の卵アレルギーや重度のぜんそくがある人、免疫が著しく低下している人(同居者も含む)は接種できません。くわしい内容は、接種を行う医療機関で確認してください。

【旭匠瑤医師会】